

平成28年10月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成28年10月の山梨県内の全業種のD I 値（前年同月）は、収益状況は6ポイント、景況感は4ポイント改善したが、売上高はマイナス16ポイントと大きく悪化した。特に、非製造業の売上高は、前年度同月比マイナス40ポイントと大幅に悪化している。

前月比で比較すると収益状況は10ポイント改善したが、売上高はマイナス2ポイント、景況感はマイナス4ポイント悪化してる。非製造業の売上高は、5ヶ月ぶりの悪化。

昨年は、アジア地域を中心に長期休暇が取得しやすい日が重なり、訪日旅行者によるインバウンド消費の拡大や天候に恵まれ野菜や果物の価格が安定していたこと、またガソリン、軽油価格の低下により企業のコストから非製造業を中心に売上は回復傾向にあった。

しかし、今年は円高や中国をはじめ海外経済の影響に加え、中国における関税の引き上げによる中国人旅行者の減少、中国国内でのネットショッピング拡大による爆買の低迷、天候不順の影響による野菜価格の高騰が家計を直撃するなど、マイナス要因が多く、小売業を中心に売上が減少した。

また、全業種をとおして技術者や建設技能労働者等の担い手不足が深刻化しており、受注を断るケースもあるなどの報告が多く寄せられている。

今後、天候も回復基調にあり秋の行楽シーズンや年末の商戦期を控え、消費者マインドの上昇を期待する一方、企業経営の安定化を図るため後継者育成や事業承継を業界全体で進める必要性が高まっている。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト関係は低調だが、ホテル・レストラン向けに加えおせちの前倒し受注により生食材が伸長し、全体の売上は前年同月比125%。
食料品（洋菓子製造）	自社製品は輸出が好調だったが、量販店、専門店向けは不調。OEMは焼き菓子、冷凍ケーキが好調で、全体の売上は107%と久しぶりに前年を上回った。
食 料 品（菓子）	9月に引き続き売上が前年同月比10%減。年末に向け繁忙期となるため、例年派遣等によりスタッフを募集しているが、今年は募集してもスタッフが集まらない状況。

食料品（ワイン）	ワイン製造業への新規参入が年々増加しており、原料となるブドウが不足傾向。
繊維・同製品（織物）	全体的に低調。インテリア関係は、ホテル関連は順調に推移しているが、低価格帯の売上は少ない。
繊維・同製品（アパレル）	デパートや量販店での婦人服の売れ行きが落ち込んでいるため、受注状況も不安定。
木材・木製品製造	10月に入り受注量が例年並みになってきた感がある。
窯業・土石（砂利）	山梨県発注の公共工事が前倒しされているが、骨材需要の伸びは感じられない。
窯業・土石（山採石）	製品出荷量は前年同月比119%と伸長したが、諸資材の高騰により利益率は下降気味であり、設備投資が出来ない状況が続いている。
鉄鋼・金属①	昨年より少し好転したが、景気回復感はなく景況感は悪い。
鉄鋼・金属②	業況の悪化が続いている。
一般機器	機械製造業は、円高や海外経済の減速の影響により受注量が減少傾向にある。自動車関連・電子部品関連は景気が改善傾向にあるが、中小企業の厳しい状況は依然続いている。
電気機器	首都圏の大手企業が競争相手となっているが、山梨県や県内市町村が発注する積算見積もりや改修工事等は、若干ではあるが地元企業を優先または推奨してくれている。
宝飾（貴金属）	地場産業を支えてきた宝飾関係の職人の高齢化が深刻化しており、技術者不足となっている。若手技術者の多くが製品の仕上げ程度の技量しかなく、仕事の幅も狭く知識や応用がないため、業界の将来が心配である。

● 非製造業

卸売（ジュエリー）	国内流通は停滞。海外は、中国経済の悪化により高額品の需要は減ったが、中・低額品の需要が広がっている。中・低額品の需要の広がりには当業界にとっては良いことだが、売上金額の増加には至っていない。
小売（青果）	販売価格の上昇により前年同月比売上高は19%増加、収益状況も20%上昇。
小売（食肉）	食肉の相場は安定しているが、野菜価格等が高騰しているため消費者マインドが低下し、売上が伸びない。
小売（電機製品）	量販店、地域店ともに売上減。
宿泊業	秋の観光シーズンが始まり、インバウンドの減少分を国内客で補填できた。中国人観光客は減少傾向にあるが、東南アジアの景気が上向き観光客も増えている。

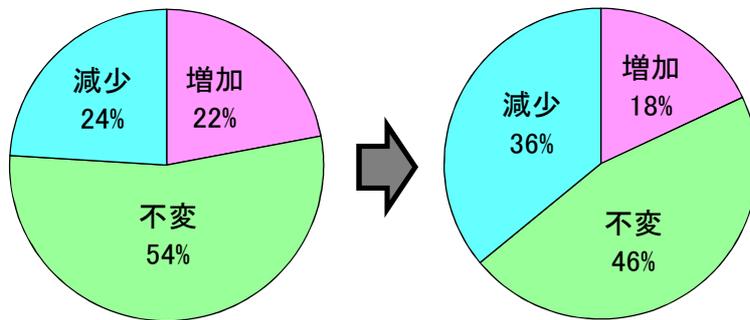
美 容 業	天候不順や野菜等の高騰により消費者マインドが低下しているため、美容に対する考え方が消極的になっている。
廃棄物処理（産廃系）	これまでは排出事業者が処理業者と直接取引をしてきたが、最近では事業系一般廃棄物、産業廃棄物を問わずに排出事業者はビル管理会社を經由して廃棄物を処理業者に引き渡している。現行の処理料金でも安価な上に、管理会社の手数料を引かれては商売にならないが、得意先を失いたくないため厳しい取引を継続している。
警 備 業	前年同月比7%程度好転しているが、警備員の不足から受注に対して対応できない状況。
建設業（総合）	上半期における前倒し発注の反動もあり10月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ件数は22%増加、請負金額は33%減少。10月までの累計では、件数、請負金額ともに5%増加。
建設業（型枠）	10月に入り公共事業及び民間工事ともに例年並みの工事発注があった。
建設業（鉄構）	県内の物件は少なく、首都圏の需要に依存する傾向が続いている。
設備工事（電気工事）	経営者や技術者の高齢化等を理由に組合の脱退が相次いでいる。また、県内に仕事がないので県外に行く事業者も増えている。
設備工事（管設備）	新設住宅の増加により業況は好転。しかし、配管工等の職人の高齢化が進んでいるため今後、労働者確保が課題となる。
運輸（タクシー）	売上は、前年同月に比べ減少。地域の高齢化が進んでいるため、午前中は買い物や通院等による利用が微増しているが、夜間の利用者は減少。
運輸（トラック）	9～10月にかけて、長雨等による日照不足により農作物の出荷量が大幅に減少したため、青果物の輸送量も減少。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2015/10	2016/9	2016/10	2015/10	2016/9	2016/10	2015/10	2016/9	2016/10
売 上 高	-35	-30	-15	20	-7	-20	-2	-16	-18
収 益 状 況	-25	-20	-10	-3	-13	-3	-12	-16	-6
景 況 感	-25	-15	-20	-17	-10	-13	-20	-12	-16

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D. I 値

売 上 高 (前年同月比)

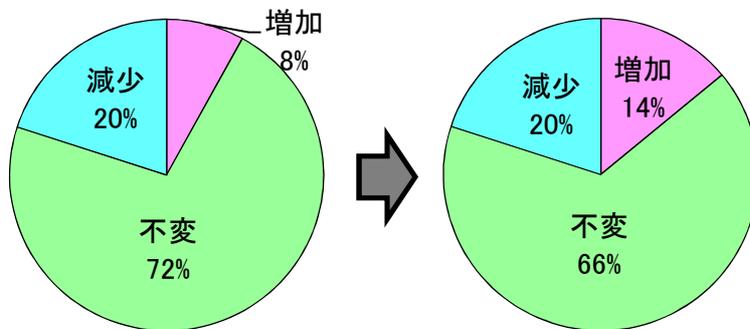


平成27年10月

平成28年10月

- ・ D I 値 ▲18 (前年同月比▲16)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 ▲15 (前年同月比+20)
 - 非製造業 ▲20 (前年同月比▲40)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 15ポイント改善
 - 非製造業 13ポイント悪化

収 益 状 況 (前年同月比)

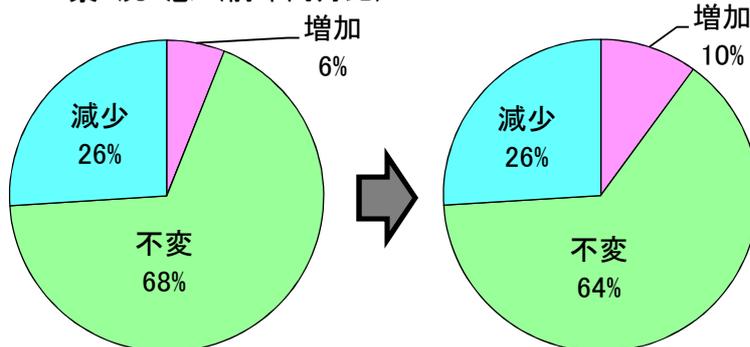


平成27年10月

平成28年10月

- ・ D I 値 ▲6 (前年同月比+6)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 ▲10 (前年同月比+15)
 - 非製造業 ▲3 (前年同月比±0)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 10ポイント悪化
 - 非製造業 10ポイント改善

景 況 感 (前年同月比)



平成27年10月

平成28年10月

- ・ D I 値 ▲16 (前年同月比+4)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 ▲20 (前年同月比+5)
 - 非製造業 ▲13 (前年同月比+4)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 5ポイント悪化
 - 非製造業 3ポイント悪化